



R18
Adult Only
成人向け

悪の華 vol.2

悪堕ちSkeb+αまとめ

本編合計：54枚

文字無し差分：53枚 計107枚

サークル：夢見町3丁目。

収録内容

・元魔法少女の母親が現役魔法少女の娘を庇って…	…03
・ママが立ち塞がったが娘の様子がおかしい世界	…07
・人間の姿にもなれる擬人化武器娘の話	…10
・それから数日後	…14
・魔王討伐の勇者パーティの王女様のママ	…17
・優しい教育の時間	…21
・巫女さんと悪霊と友人と	…24
・隙間の話	…28
・巫女姉妹と悪霊と友人と	…29
・戦利品確認の時間	…33
・心がすべての魔法少女養成学校の先輩	…36
・手引きをした者	…38
・命の恩人	…39
・誰かの恩人の昔の出来事	…41
・前後が浮かばなかったやつ 1	…45
・前後が浮かばなかったやつ 2	…54
・表紙用のイラスト	…55
・あとがき	…56

本作品には2021年11月～2022年10月までのSkeb納品作品、SNS投稿作品とSkeb納品作品の描き手としての**勝手な続きのイメージ**が収録されています。



魔法少女 ミナセ

これで
終わりです



ま、ママ……!?

ふふ…間に合ってよかった
黙っていたけど
私も昔魔法少女でね…

もう力なんて使えないと思ってたけど…
娘のピンチを黙って見ているなんて
出来ないわよね…!



ほう…
この力は…

魔法少女の母 アスカ





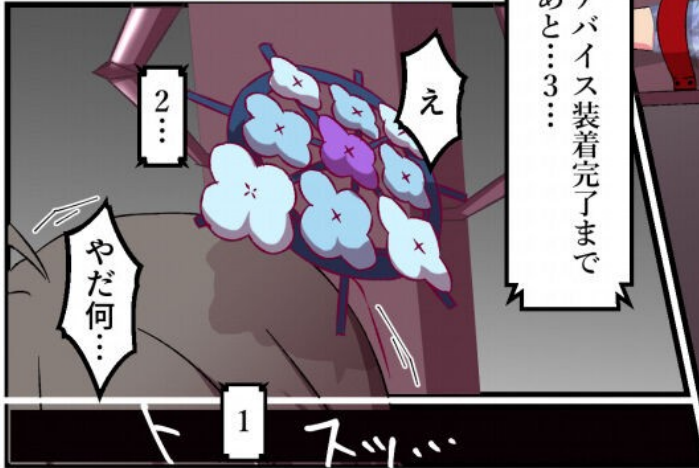
え…!?

この感覚…
変身の…!?

それに…
床の反射…

昔の…私…?

デバイス装着完了まで
あと…3…



え

2…

やだ何…

1 スツ…



ドク

ソツ



頭の…中に…

ア…

何か…

ドク

ア…ア…ア…

ア…

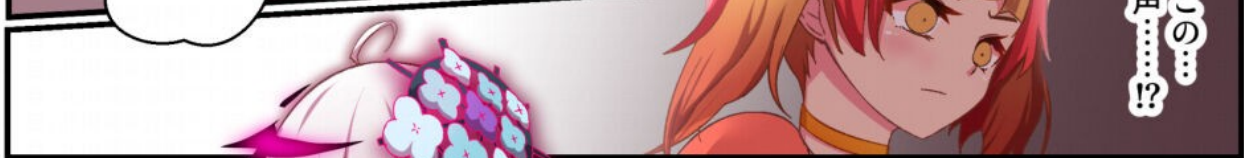
対象の再構築フェーズの完了

対象に自身の役割の確認
発言を要求します

私…

私は…魔法少女…

私は…



なあんて…

言ってた割には
あっさり負けちゃってさあ…

たしかにママは強かったけど…
アタシの方が強かったね

『ご主人様』が
優しい人で
よかったあ♡

ママみたいなよわあい人も…私みたいに馬鹿みたいに
逆らった人も組織にいれてくれて…

ママも私の部下としてなら置いてくれるって…

一緒に世界征服頑張ろうねママ？


魔法少女？
ミナセ



「……………!?!」

SNS投稿時に娘にドン引きされるママとか
身体そのままママとかもありだよね的な感想を
いただいた時に私も確かに見たいなとなったママ

全部忘れて悪の魔法少女として過ごした方が
幸せであろうパターン



「ママより私の方が
ご主人様の役に立てるよ？」

何があったねん選手権第一位。かつての魔法少女。

「ママに堕とされて娘も…の連鎖堕ちとかも見たい」的な感想を見かけた際に私の脳内によぎったのは何故か「別途堕とされててママより強い娘」でした。なんで？

組織内部とかでまたママも頑張ってる自分の方が強いと言い合いながら成長していくことでしょう。

娘側の堕ち過程がないのはママの敗北スピード感を強めるため、衣装が元衣装の面影無しなのは娘側は戦闘員として確保されているため。

気持ち程度にボロくなった魔法少女の衣装の一部を身に着けさせられています。

…という感じのあれそれがありますがそこがとても大事だろというのもすぐわかるので本当すみませんとも思っています。



『アンカー』

この世界の崩壊を防ぐため
剣の精とともに旅をしている存在

その中でも最高ランクの
『聖剣』ライジェリア

俺なんかにはもったいない
最高のパートナーだ



アンカーの存在を
良く思わない組織に
奪われてしまった

しかし
彼女は



俺は彼女を取り戻すために
協力を申し出てくれた剣『モニカ』と契約し

ついにライジェリアを奪った奴らの
アジトへと辿り着いた

そして――

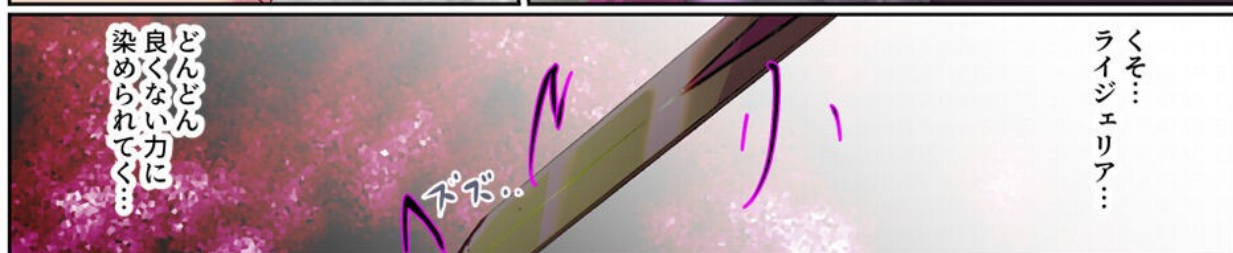




教えてもらった通り…!

アンカーの血って美味しいのね…!

剣は血を吸うもの…
ルディの血…もっとくれるよね…?



くそ…
ライジェリア…

どんだん
良くない力に
染められてく…

ズズ…



ルディ様…!
ライジェリア様を取り返しましょう…!

ああ…
力を貸してくれ…!



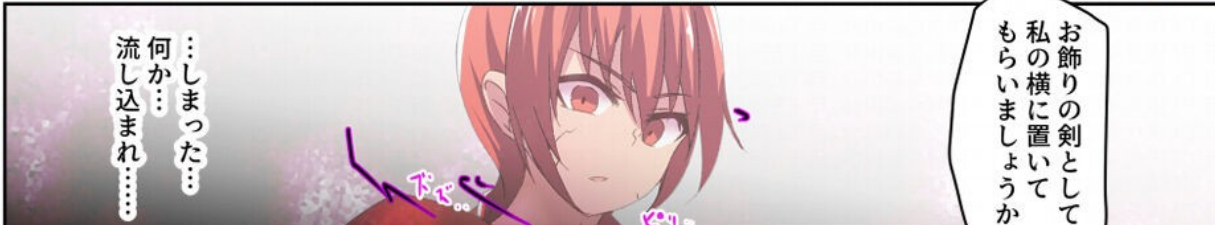
は?
だあれ
その剣…

イラッ…



あなたは……そうね……

ルディの剣は私だけでいいの…。



…しまった…
何か…
流し込まれ…

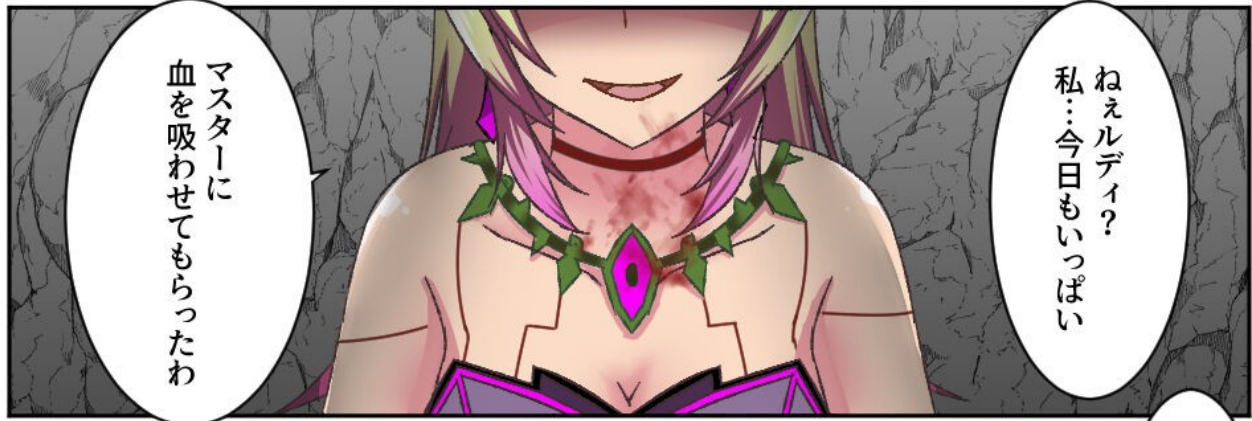
お飾りの剣として
私の横に置いて
もらいましょうか

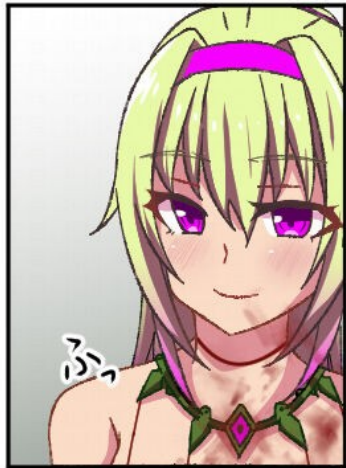


今度こそ…
あなたの血を吸わせて…？

あなたを守るものは
これで無くなったわ

足りない 足りない 足りない
いくら斬ってもあなたの味には至らない





ふっ



君を元に…

ん
どろろ

どれほど時間がかかっても

必ず……



クッッ

ッ…!

ん



でもそんな言葉を放つときの
あなたの血ってとても美味しいの…

ん



これが本当の私なの…

ん

何度も言わせないで？



ああ…

やっぱりこの味

ほら…あなたのきれいなことを食べて
どんどん魔剣として私が成長していく



これからもずっと
傍にいてね？

元マスター？



王城コンコルディア

魔王討伐のため
勇者と光の力を持つ王女ルイスの出発

ルイス…
必ず無事に帰ってきてくださいね

ご飯もしっかり食べて…
あと勇者様にご迷惑をおかけしないように…

も、もう母様……



勇者様……
娘を……

ルイスをよろしく
お願いいたします。

はい…必ず

ルイス様は
私が守り抜きます



……

お見送りは済んだかしら？





私の役目は国を…
この者達を…

—そう…私はこの国を
幸福で満たせる力を入れたのです…

エリアーヌ様…？

え…

な…？

王女出奔と同日
王城コンコルディアでの
異変が発生



勇者と王女が異変に気づくことはなく
時は過ぎていった

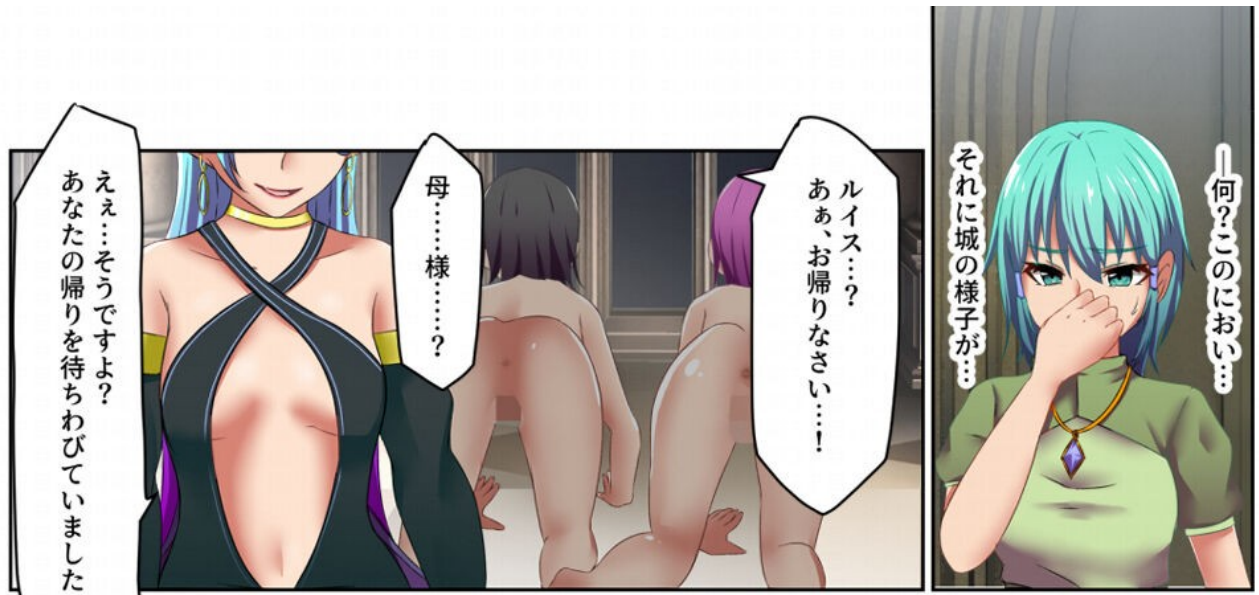
勇者様…近くまで来たので…
母に挨拶をしても構いませんか？

もちろん

エリアーヌ様に元気な姿を見せてあげよう

ありがとうございます！
では…一度先に城へ行かせていただきます…！！

—そして異変後
初めての王女の帰還



「何？このにおじ…」

それに城の様子が…」

ルイス…？
ああ、お帰りなさい…！

母…様…？

ええ…そうですね？
あなたの帰りを待ちわびていました



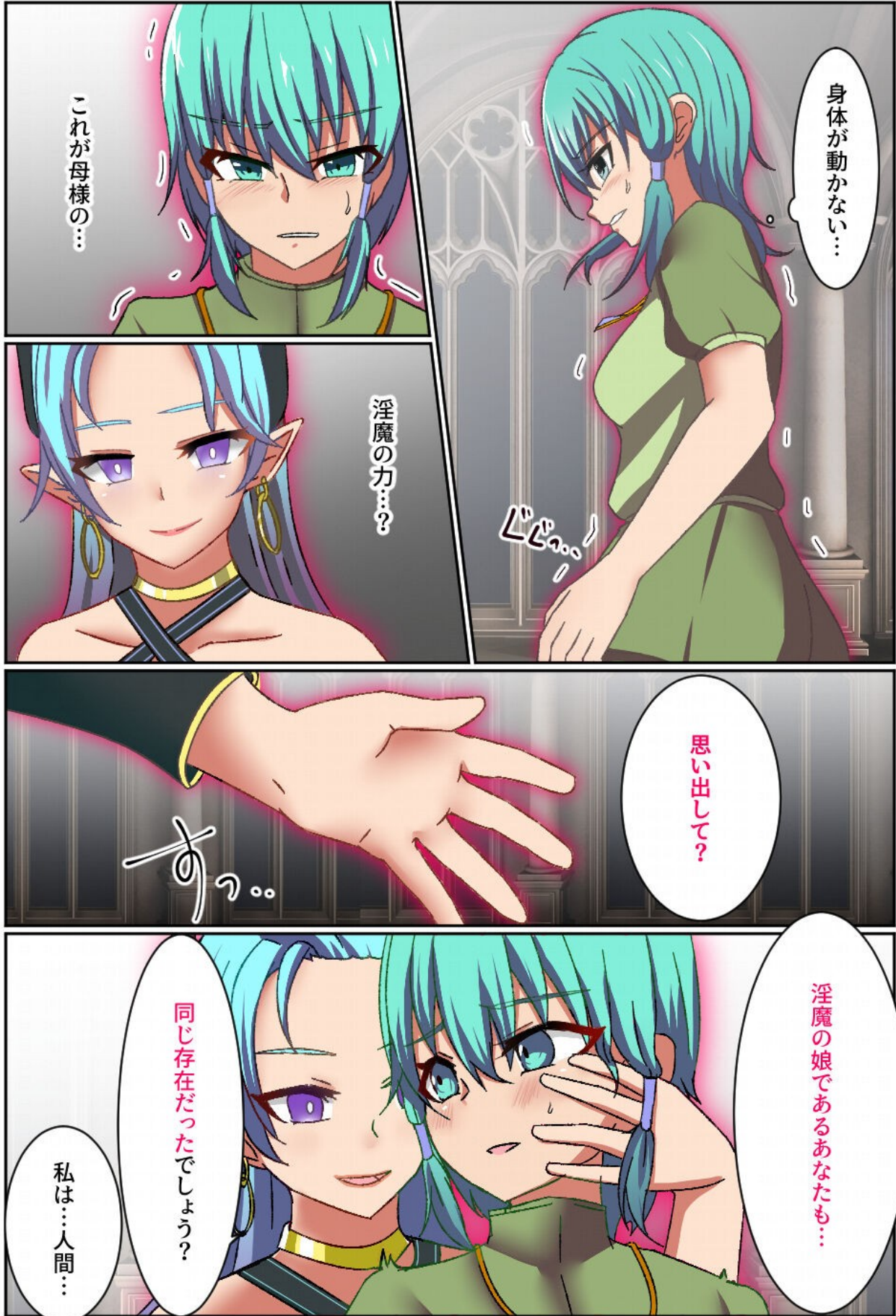
淫魔様に頂いたこの力と快楽…
あなたにも教えて差し上げたくて…！

……ゆ…勇者様…！？

あなたの親しいメイドたちも
皆すべてこちら側…♡



あなたも淫魔になって
一緒に勇者の精を
絞り尽くしましょう？



人間？

本当にそう？

この胸は…

人間はこんな簡単に
快楽を得ることが
出来たかしら？

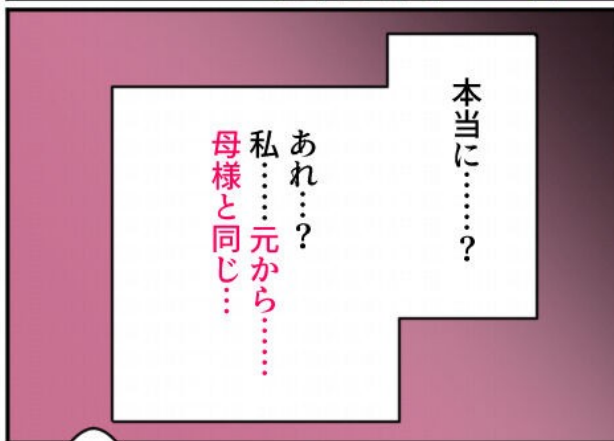
ここは…？

服の上から…

ただ…

さずられているだけなのに…

…ほら、今の自分をよくみて？





あいつか…クク…
ただの小娘ではないか



ここに救済の力を持つ
巫女がいると聞いたが…



その体と力…

いただくぞ…



おま
体に入って…?!

何か…



考える必要などないぞ？

お前の体はこれから
俺のものになるのだから…

そんなの…い…や…



って……も……

ごめん昨日の
現社のノート見せてもら……



あ、みのり……!

こいつは……
『リョーコ』
嫁入り前の
娘が
おと
娘が
……フ……
この巫女の
友人か……

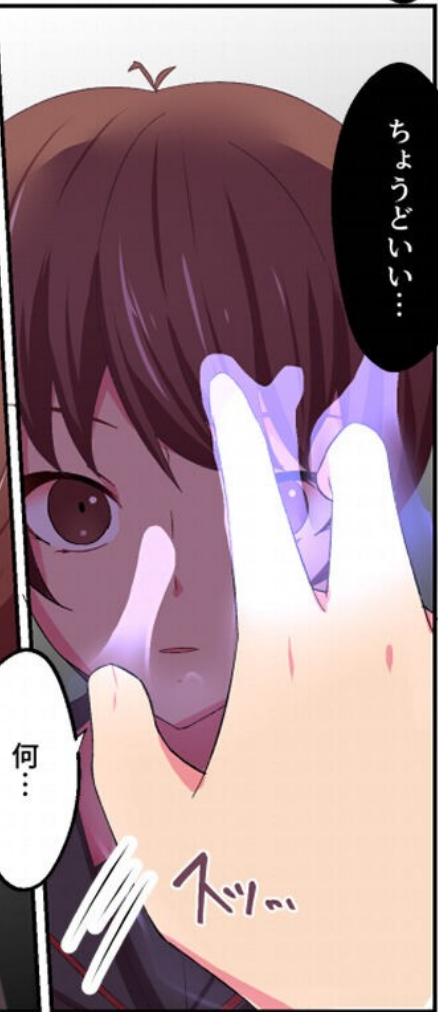


え……?

が

すん……

何……



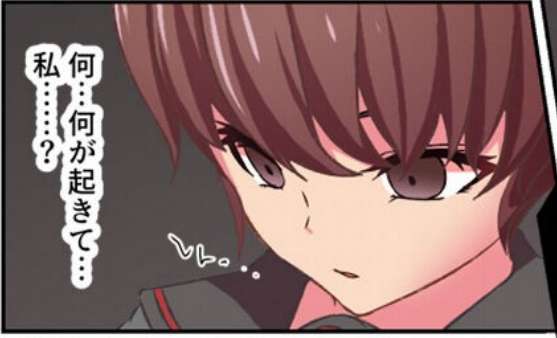
ちようど……

ズ……

これが巫女の持つ「救済」の力か…!

ずっ…

俺だけでは
憑りつくだけで精一杯だったが…
他者の魂に干渉できるとはな…!!



何…何が起きて…
私…?!



どうなってるの…!?



怖がる必要はない

お前はもう
俺のことだけ考えて
俺のためだけに
動く存在に
なるのだから

な…



そんなのになりたくない…!

早く元に戻して…!!

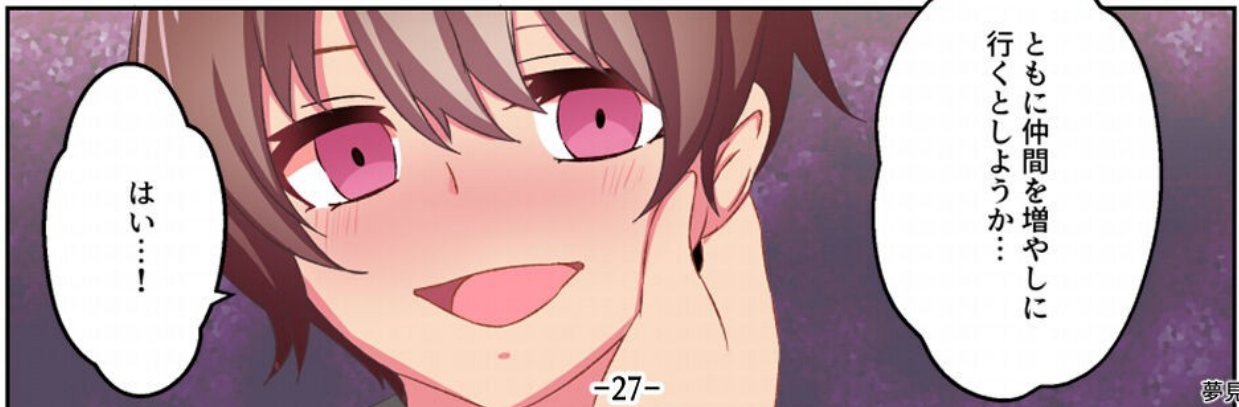


ちゃんと戻してやるとも…

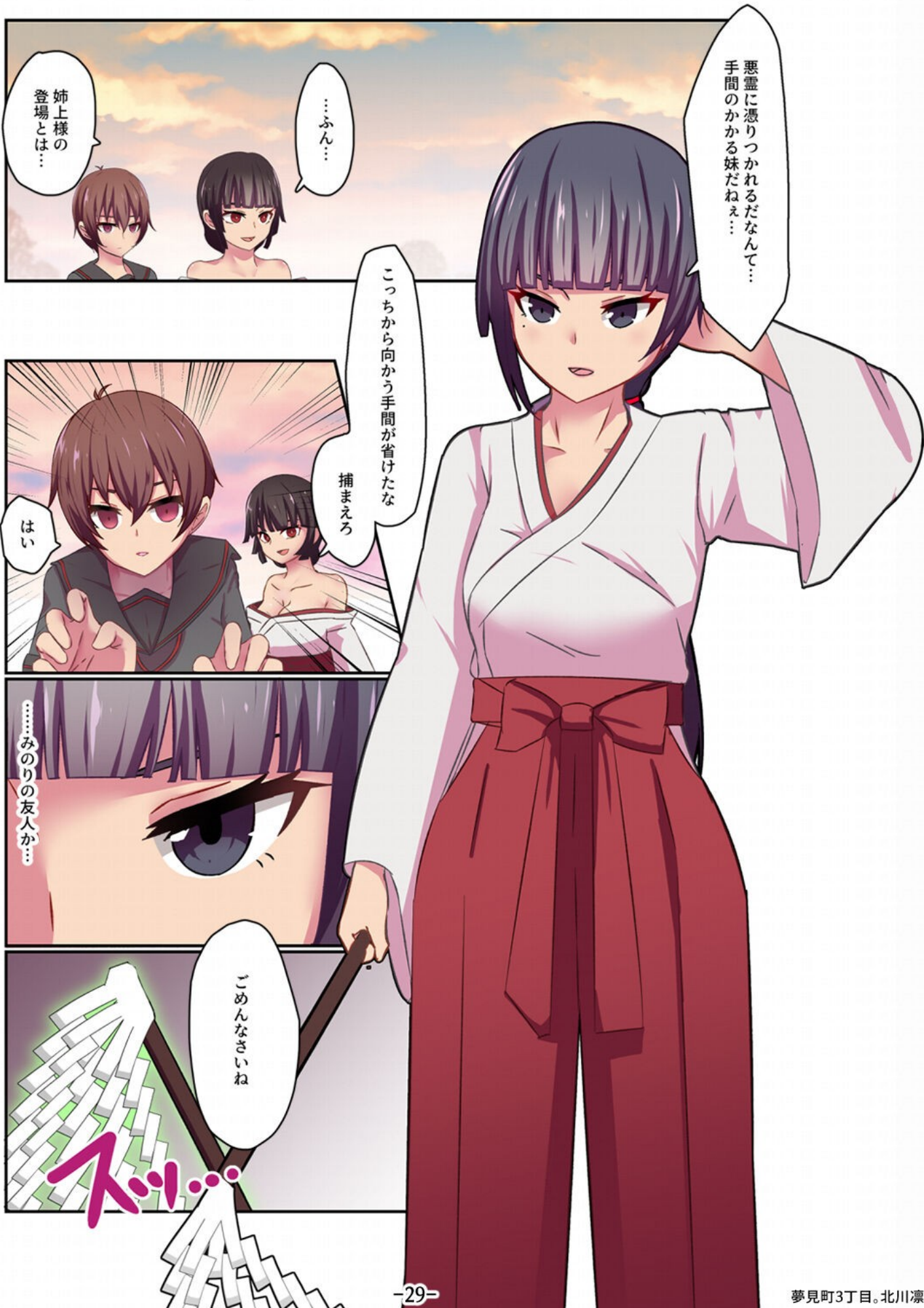
いや…私が…
消え…

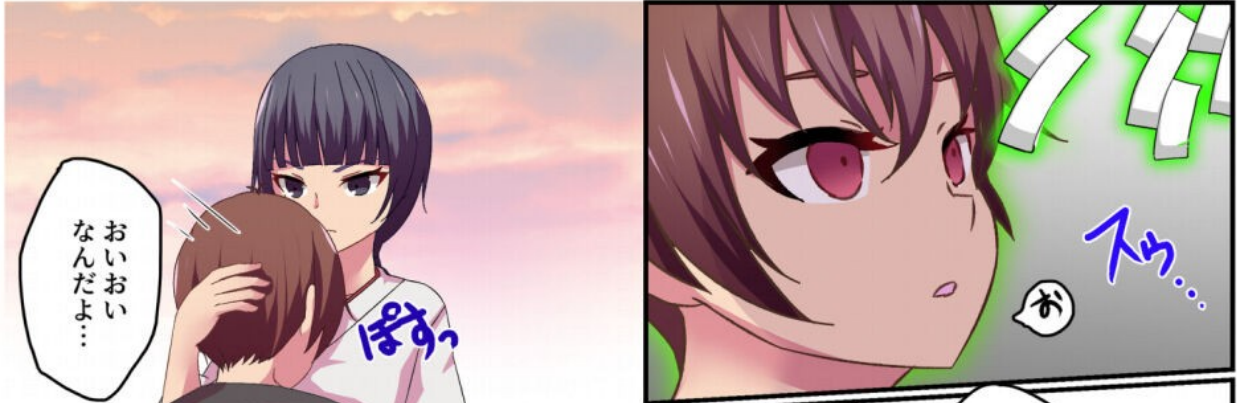
俺好みの魂に染め上げてからな…

じゃっ…

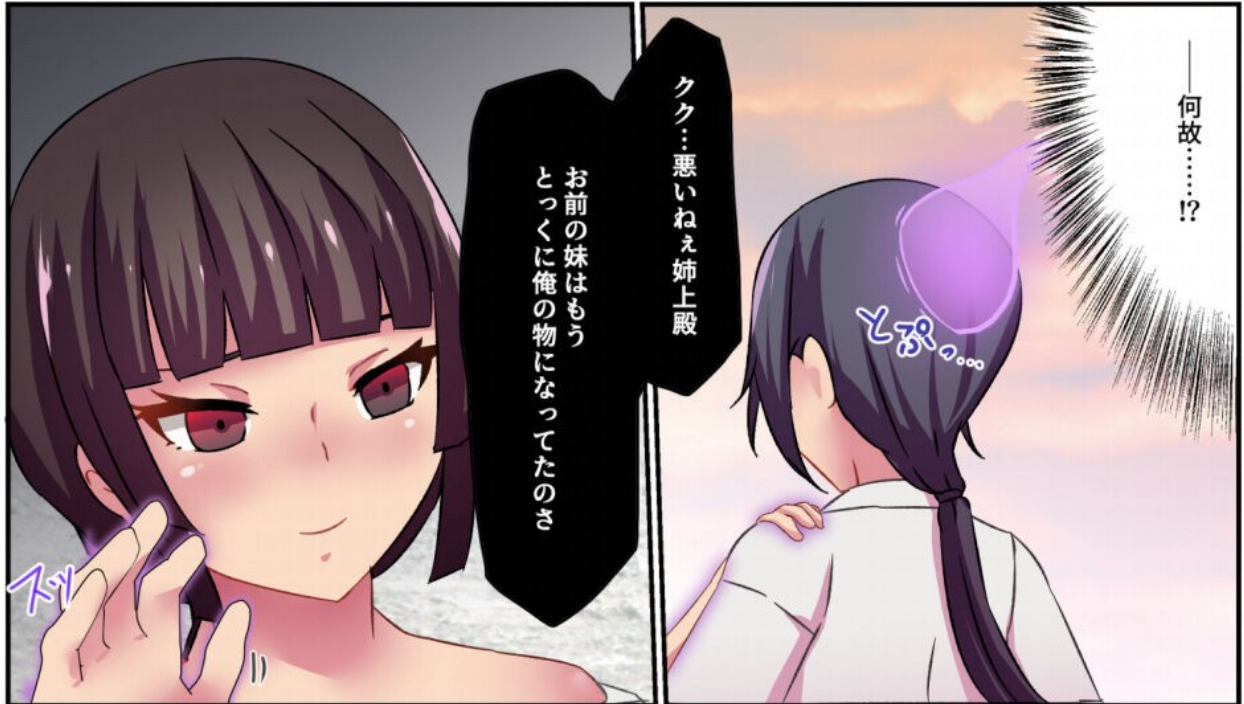












—何故……!?

クク…悪いねえ姉上殿

お前の妹はもう
とっくに俺の物になったのさ

フヤ

とぶっ…



安心しろ

お前の体も
ちゃんと
使ってる

大切だよ

お前

お前



お前……いや…
『私』の魂も馴染みやすかったな

改めて感謝するよ……!!
新しい体を持ってきてくれたこと…



意識…が…

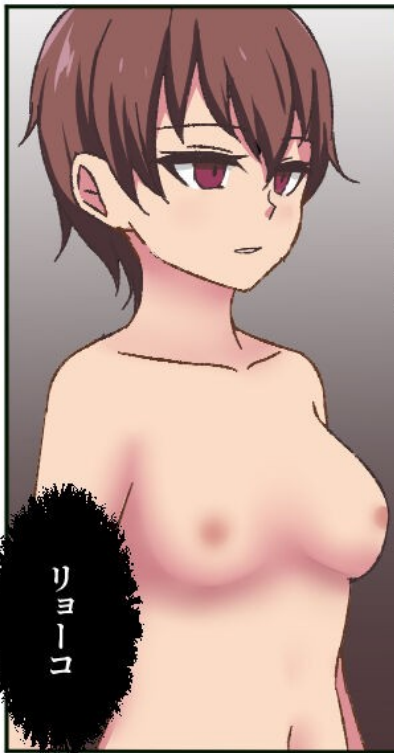
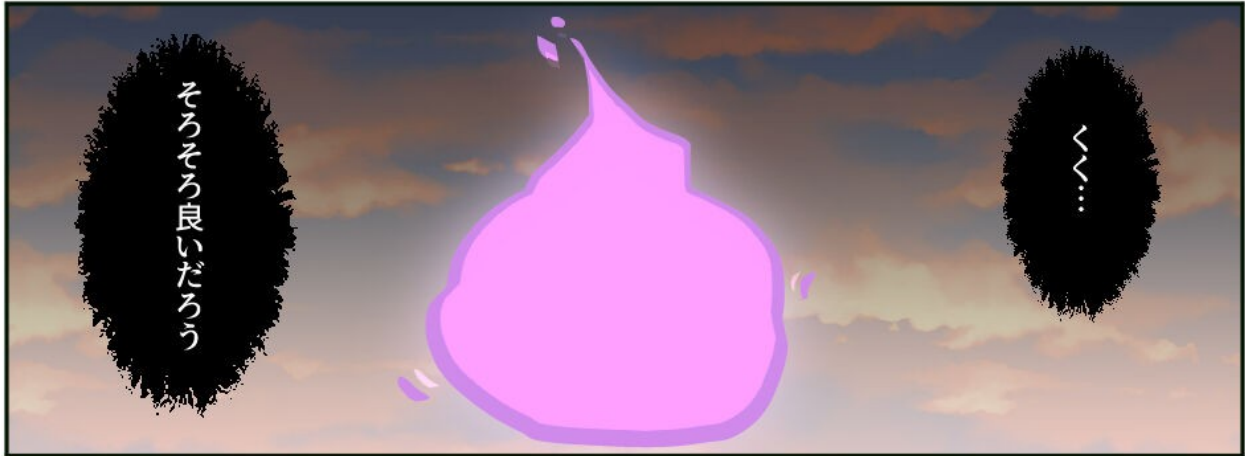
とびっ



……フ

ずん…

すっ…





どうぞ
何にでもお使いください

私達のご主人様に
魂を染めていただいた
あなたのための駒です



それどころか...

クク：
俺が憑いていなくても
何も抵抗しない...



今日はお前だきよみ

!



ありがとうございます！

どうぞこのきよみ…

いえ下僕3号の体におはいりください…！

あは



トゴゴ...

あんなにおっかなかった
姉上様が自ら体を明け渡す…

ああ…最高だよなあ

では…もうと都合のいい駒を揃えていこう

これから貴方たち…
未来の魔法少女に大事なことを伝えるわ

私達の力の源は心

心が変われば姿も変わる
それが変身であり…変心

間違った選択は
貴方たちの魂の形から変えてしま…

気を付けないと

うん

う…!?

先輩!

お……あ……

あ……？

ニクニク

ニクニク

ほら

助けを
呼ぼう

しっかり自分の
心を意識して……

自分の本当の
形を思い出して……

バク……

……ごめんなさい

話の続きだったわね

心次第でこんな姿にもなれるのよ

貴方たちにもこの素晴らしさを
教えてあげないと……



このあたりのは何も考えずに去年Twitterに上げてたものです。
憑依系だけど手引きをした奴がどうやらいるようだな…というのを
ぽつりぽつりをいるんなところで呟いた…り呟いてなかったりしています。
ピンク髪の子の手をどけると笑っている差分があったはずなんだけど
あれはどこに保存したんじやったかのう……。

この世界に突如現れた化け物の襲撃。
建物は倒壊し、予期せぬ事態に自分は腰を抜かした。
逃げ遅れた自分に、彼女はこう言った。

「立てる？早く逃げた方がいいわ。」

そういつて自分の手を取ってくれた。

彼女の手を取らなければ

そのまま化け物の前で怯え、動けず

最悪の展開を迎えていたかもしれない…。

彼女は命の恩人だ。



その恩人が、今日の前に立っている。
肌の色は青く、髪型も違う。

角など生えてもいなかったが……。

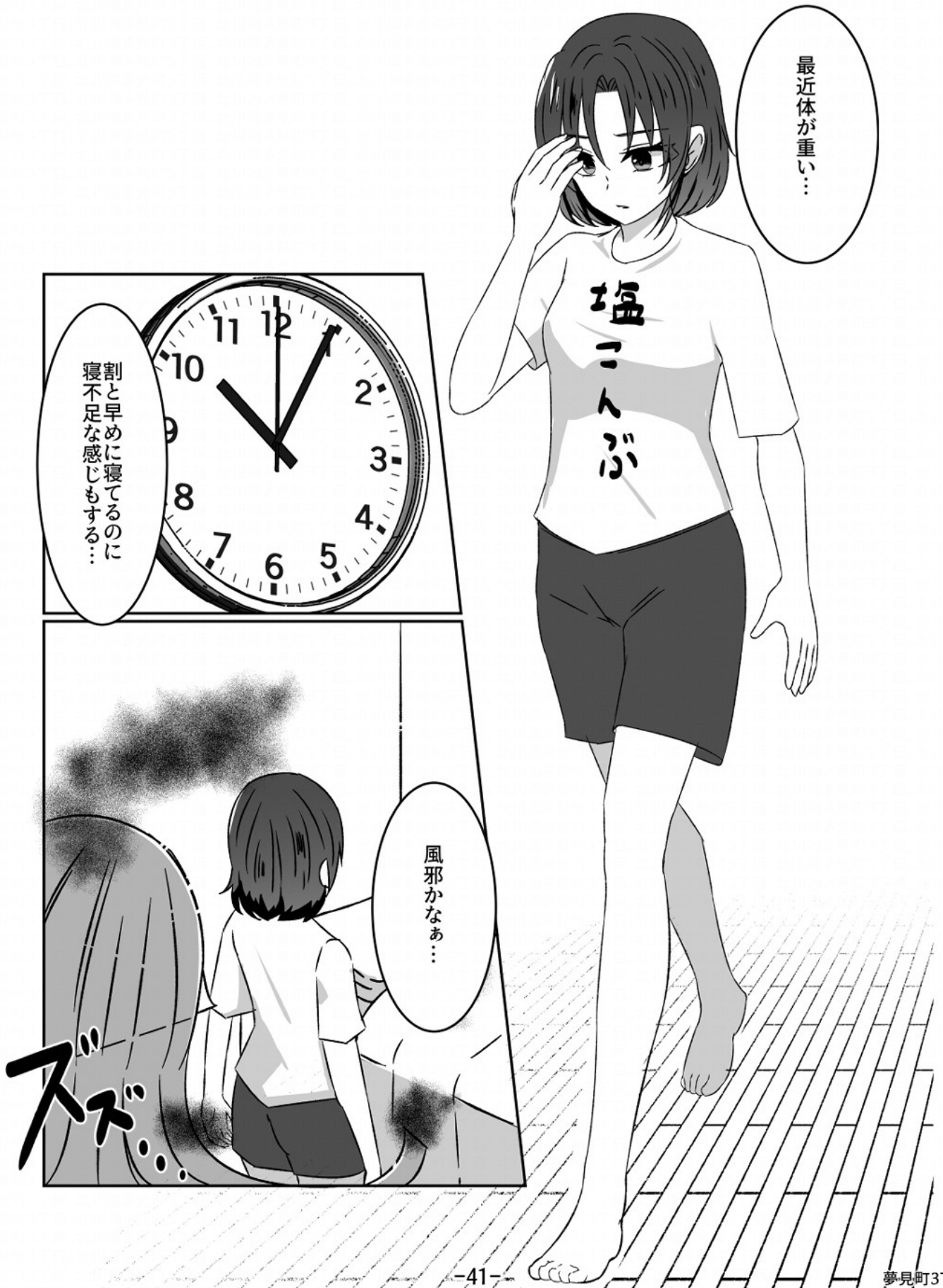
わかる、彼女は……あの恩人だ。

覚えがあるのは向こうも同じようだった。

「だからあの時逃げろと言ったのだ。

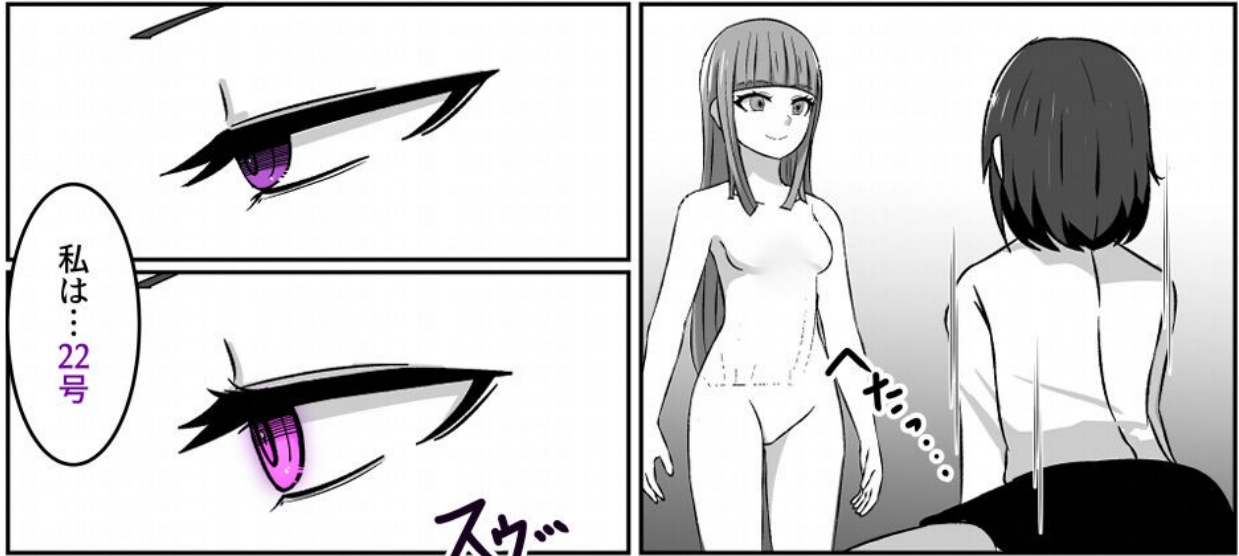
それとも……私たちの仲間になりたいのかしら？」

艶やかな声で話す彼女の……自分は……。









暗がりの中でとある魔法少女は目を覚ました。

「……え……何……?」

記憶を辿る。

自分がこうなった理由。

家族が敵の組織に捕まり……
その心の隙をつかれて敗北した。

そしてそのまま敵の拠点へと連れ込まれたのだろう。

「私……負けたんだ……。」

「立場を理解しているようで何よりです。」

機械で合成されたような音声で、今いる場所全体に響く。

「せっかくあなたの母親もこちらに引き入れたのです。
どうせならあなたも我々の駒として使わせていただきますよう。」

その音声と同時に、怪しげな機械のチューブとそれにつながれた装置が体に装着される。

「んん……っ……！」

発した声は装着されたマスクのようなものを超えることは出来ず、ただの籠った音となる。

「安心してください、危害を加える気はありません……それでは……。」

ブオン……。

チューブの元にある機械本体が作動したのか、大きな音が響く。

繋がれたマスクからは甘い香りが漂い、股間は軽いマッサージの様な振動と……同時に少しずつ、液体のようなものがそそがれている。

「(全身がぞわぞわする……気持ち悪い……)」

「ああ、可哀相に……。あなたがもつと強ければこんな目に遭わなかったかもしれませんね……。」

煽るような、しかし優しくも感じられる言葉を受けながら、少女はどんどん甘い香りに包まれていく。

「……おわ………った……？」

怪しげな装置達はゆっくりと体から離れていく。
香りの影響か、頭は上手く働かない。

体は……どこか、小さい粒が弾けて消えて……

また生まれて……そんなことを皮膚の下で繰り返しているようなおぞまじさが残っている。

この装置は自身に何をしているのだろうか。

目的は達成されたのだろうか……？何もわからない。

は……

は……

ただ装置をつけられた時に聞いた通り、自分が弱かったことだけしか。

そんなことを考えている時間も……長くは続かなかった。

先ほどと同様のチューブに…
今度は仮面のようなのが繋がって現れ…少女の顔へと装着される。

その「仮面」は外の世界を見ることは出来ず。彼女は暗闇に取り残される。

カキヤッ

「やだ…何…何をされるの…? やだ…私…もう…」

恥辱と孤独と暗闇。彼女の心を壊すためには既に十分なものだった。

そんな彼女の視界は、突如光に包まれていく。

体の中の不快なおどましさはその光とともに
それが正しい姿であるかのような快樂へと変わり、壊れた心をつなぎあわせる。

あゝ



『.....』

Tn...

「おや…素敵な姿じゃないか。」

仮面が外れ、少女は見える範囲ではあるが、自分自身の姿を確認する。

「……あ……？」

「君がもう怖い思いをしないように、魔法少女の力を内側から書き換えさせてもらったんだが…。その姿は我々の部下の服……。君が望んでその姿に変身してくれるだなんてね。」

「私……私が……？」

「そうだ、君がだ。」

無機質な…けれど優しい声をきっかけに少女は思い出す。

「君は…今、『何』なのかな。」

「この組織のための駒です。」

「私に光をくれた組織のために働きます。…なんでもお申し付けください。」

その日…一人の魔法少女は終わりを迎え、そして彼女は新しい人生を歩むこととなった。



ぞんぞん

ぞんぞん

ぞんぞん

ぞんぞん



パッケージ表紙に当たる子を誰にしようと悩んだんですが、王女様のママで。

理由はなんか好きだから。
なんか好きですね。

あとがき

ここまでお読みいただきありがとうございました、北川です。
書いておきたいことかなりあるんですが…絞りに絞って。

Skeb依頼していただいた方や、前回のまとめを購入していただいた方達のおかげで
Vol2を発行することができました、本当にありがとうございます！

皆さまのおかげで人の形をぎりぎり保ちながら生活することが出来ております…。感謝！

前回と同じく、Skeb漫画は私自身の勝手なイメージで追記したりしています。

「ただそういう世界線もあつたら見たい」くらいの雰囲気描いているので矛盾とかも
平気で発生しています。とくに魔法少女ママのやつが顕著に出ている…。

だって見たかったんだもの

ということで許していただきたいなと思います…。
(あまりにも前後が浮かばなかったやつが後半の絵のほうのやつです)

それでは、ここまでお付き合いいただきありがとうございました。
またお会いできるように頑張らせていただきます。

北川凜

奥付
発行 2022年10月27日
発行サークル 夢見町3丁目。
発行者 北川凜

ウェブサイト:(<http://www.d-town3.com>)
連絡先:ktkw3.r@gmail.com